

今週のメニュー

■トピックス

◇塩ビ含有廃プラスチックの脱塩素燃料化システムの開発
—太平洋セメント株式会社—

■随想

◇古代ヤマトの遠景（74）—【^{にぎはやひ}邇芸速日命・^{にぎはやひ}饒速日尊】—

信越化学工業（株） 木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇塩ビ含有廃プラスチックの脱塩素燃料化システムの開発
—太平洋セメント株式会社—

VECによるリサイクル支援制度で6件目の協賛事業である太平洋セメント株式会社(東京都港区台場2-3-5)の「塩ビ含有廃プラスチックの脱塩素燃料化システムの開発」が、2013年3月末に当初の目標を達成し協賛事業を終了しました。

同社の開発テーマは、シュレッダーダストなどの塩ビ含有混合廃プラスチックをキルンでアルカリ調整剤を添加しながら脱塩素した後、得られた炭化物を水洗により脱塩してセメント用・ボイラー用燃料を製造する技術を開発するものです。シュレッダーダストには様々な種類、組成のプラスチックが混在しており、これをさらに分離してリサイクルすることは困難です。少しでも付加価値の高いリサイクルをするために検討されてきたのがこの技術でした。このテーマでは効率的な脱塩素と生じた塩素系ガスのトラップ技術の開発により脱塩素化プラスチックの燃料化に大きな進展がありました。

日本全国にセメント工場は30工場あります。そこでは、石灰石、粘土などからセメントを造っているだけでなく、今では、大量の廃棄物を受け入れ、資源として有効活用し、循環型社会形成における重要な役割を果たしています。廃プラスチックも多く受け入れており、2007年から2010年は毎年約40万トがセメントキルンに原燃料として投入され資源として活用しています。しかし、シュレッダーダストや建設廃棄物等の塩ビを含む混合廃プラスチックをセメント用燃料として使用する場合、製品に塩素総量としての制約があるため使用が制限されてきました。この問題に対応するため、工程から一部ガスを抽気して塩素分を除去するいわゆる高濃度塩素バイパス方式の処理が行なわれてきましたが、今後さらに多様な塩ビ含有廃プラスチックに使用していくためには、この対応だけでは限界があり、さらに新たな利用技術の開発が必要になってきています。

この支援テーマは、この問題解決のため新しい脱塩素システムを開発し実用化を目指すものです。特に、この開発で使用したキルンはアントラーキルンと呼ばれ、脱塩素時の温度条件で発生するターントラブルの一切ないシステムで、効率的な脱塩素が行われることが明らかとなり、実用化に向け大きな前進をしました。太平洋セメント(株)は、今後は実用化に向けた実証試験を行っていく予定です。塩ビを含む混合廃プラスチックが制限なく処理できるようになれば、この分野での廃棄物の多様化と処理量の拡大が図られ、塩ビリサイクルの拡大に繋がるものと期待されます。また、この技術が一つのステップとなり将来的には塩素も回収できる技術への開発に繋がればと期待しているところです。

◇古代ヤマトの遠景（74）－【邇芸速日命・饒速日尊】－

信越化学工業（株） 木下 清隆

前回見たように、日本人が親しんでいる古代の天皇名は、漢風諡号しごうといわれるもので、この他に和風諡号もあるが、共に新しくそれ以前に使用されていた名称は定かでない。そこで、特に初代倭王のその古名を明らかにするために、記紀における記述を調べてみることにする。

<古事記>

【神武記】

神武軍が磯城地方の兄師木えしき・弟師木おとしきを撃った後、邇芸速日命にぎはやひが天つ神の御子の処に参上し「天つ神の御子が天降りされたと聞きましたので、追って参降まぬくだって来ました」と述べ、天津瑞あまつしるしを献上した。邇芸速日命が登美毘古の妹、登美夜毘売を娶って生んだ子が宇麻志麻遲命〔この命は物部連・穗積臣・采女臣の祖〕である。



崇神天皇陵
(奈良 天理)

— この神武記の内容は大和に攻め上った神武天皇に対し、これまでの大和の王である邇芸速日命にぎはやひが現れ、天津瑞あまつしるしを渡したというものである。要するにこれは「王権授与譚」である。この文で重要なのは、天つ神の皇子である邇芸速日命から神武天皇へ皇位が継承されていながら、二人の系譜が異なるということである。もし、同一であれば神武天皇の系譜の中に邇芸速日命が登場するはずであるが、それが全く見当たらないのである。このように神武の皇統とは無関係とされる邇芸速日命とは一体何者か、の疑問が出てくる。この疑問に答えるかのように神武記では物部連・穗積臣・采女臣の祖と説明されている。しかし、卑しくも大和の王だったと古事記において認められている人物が、いとも簡単に皇位を譲り、身を引くなどは考えられないことである。

<日本書紀>

【神武天皇即位前記】

神武天皇は、四十五歳になったとき諸兄や子供達に、「……………、塩土老翁しほつつのをぢに聞いたところ『東に良い地があり、四方は青山に囲まれている。その中に天磐船に乗って飛び降った者がいる』とのことだ。私はその地こそ大業をひろめ、天下を治めるにふさわしいところだと思う。そこは恐らく国の中心だろう。また、飛び降ったという者は饒速日と謂う者らしい。とにかくそこに行って都をつくろう。」と述べた。

— これは神武天皇が、未だ日向の地に居た頃の話である。その当時、既に饒速日なる者が、国の中心にいて天下を治めていたという情報はあったということになる。

【神武東征終盤】

天皇の皇軍は遂に長髓彦ながすねひこの軍を攻撃した。何度も戦ったがなかなか勝つことが出来なかった。 …… 中略 …… 時に長髓彦ながすねひこは使者を遣わして、天皇に「昔、天

神の子が天磐船に乗って天より降くだってこられました。その名を櫛玉饒速日命くしたまにぎはやひのみことといひます。この命は私の妹いろも、三炊屋媛みかききやひめを娶り可美真手命うましまでが生まれました。私はこの饒速日命を君として奉えています。それなのになぜ天神の子が二人もいるのですか。なぜ天神の子と名乗って、人の土地を奪おうとするのですか。思うに、あなたは偽者にちがいない」と言上した。これに対し天皇は「天神の子は沢山いる。お前が君としている者が天神の子なら、必ず表しるしが有るはずだ、それを見せよ」と返答した。長髓彦あまのははやひとはは饒速日命の天羽羽矢一隻及び歩鞞かちゆきを天皇に見せた。天皇



霧島神宮（鹿児島）

は「これは偽物では無い」と述べ、天皇も所持する天羽羽矢一隻及び歩鞞を長髓彦に示した。長髓彦は天皇の表しるしを見て恐れ畏まったが、既に戦闘態勢にありこれを途中で止めることは出来ず、また改心することもなかった。饒速日命は天神が心配しているのは天孫のことだけであることを知っていた。また、長髓彦の性質はねじけており、天神と人とは全く異なるものであることを教えても、分かりそうにないことを知っていたので長髓彦を殺した。そして多くの兵を帥いて帰順した。天皇は、素より饒速日命が天より降った者であることが分かっており、この度の真心を尽くした行為に対しこれを褒め厚遇した。饒速日命は物部氏の遠祖である。

— この部分は神武東征の終盤で長髓彦との戦いに入ったときの一場面である。ここでの記述の後半に、饒速日命は神武天皇の前に現れ帰順しているが、古事記では帰順という形は取っていない。また、神武天皇と長髓彦との戦いと、その後の両者の遣り取りは古事記にはないものであり、更に饒速日命の表しるしを確認する場面、饒速日命が長髓彦を理由にもならない理由で殺すところも古事記には無い。ここで注目されるのは、長髓彦の口を通して、饒速日命に代わり櫛玉饒速日命の名が新しく出て来たことである。

なお、古事記では邇芸速日命、書紀では饒速日命が使用されているが、古事記の内容を示すとき以外は、饒速日命を用いることにする。

古事記と日本書紀の記述を比較すると次のような結論が導かれる。

- ① 記紀共に、その後、大和といわれる地に、饒速日命なる人物が存在していたこと、更に天神の子であることを認めている。
- ② 古事記では、神武天皇は邇芸速日命から皇位を継承した形になっているが、日本書紀では、饒速日命を帰順させることで、征服した形になっている。
- ③ 長髓彦ながすねひこ（古事記では登美毘古）の妹を饒速日命が娶り、その後裔が物部氏であるとすする記述は記紀共に共通している。

何故、饒速日命なる人物が、記紀共に記載されているのかは謎である。この謎に対する一つの回答は、神武天皇が誕生する以前にこの人物が存在していたと考えるしかないことになる。では神武天皇の誕生は何時なのかということになるが、これは先【[古代ヤマトの遠景（8）](#)】に述べたように、蘇我氏の時代である。要するに『帝紀』『旧辞』が蘇我氏によって改竄された時である。従って、次のようなことが云えよう。

- 蘇我氏時代、古事記原典が編纂されたとき、『帝紀』『旧辞』に残されていた邇芸速日命に関する記述をもとに「王権授与譚」が創作された。記紀においてもこの物語を消し去ることが出来ず、意識的にこの命に関する記述は残された。このような記紀の取り扱いから見て、この人物は歴史的に実在した大和の王である可能性が高い。蘇我氏は、この邇芸速日命から神武天皇に天津瑞を手渡させることで、この創作された天皇の正当性を保証することに利用した。ところが、書紀ではこのような古事記原典以来の考え方を否定し、創作天皇に饒速日命を帰順させる形で創作天皇の権威付けを図った。本来なら饒速日命を「神武東征譚」から削除すべきであったが、この王の存在感の大きさからそれも出来ず、神武天皇との立場を逆転させることで、この大和の王の権威失墜を図った。これが書紀編纂者の精一杯の記述だったといえる。このような考察から、初代倭王は没後、暫く経ってから饒速日命、正式には「**櫛玉饒速日命**」なる諡号^{しごう}を贈られた可能性が高いことになる。従って、

初代倭王 = 櫛玉饒速日命 と言える。 —

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

気心の知れた仲間4人と歴史の会を作り、出雲地方を訪ねました。リーダーの引率で、イザナキノミコト、スサノオノミコト、オオクニヌシノカミなどの神々が登場する名所、出雲大社、日御碕神社、荒神谷遺跡、斐伊神社、須我神社、八重垣神社、黄泉比良坂、揖夜神社などを巡り、最後に、幸せのパワーポイントとして有名な島根県立美術館の宍道湖うさぎ（前から2羽目のうさぎだそうです）をさわって来ました。出雲には縁結び、夫婦岩、幸せうさぎなど、若い女性の魅力を引くポイントが多くあり、是非、一度行かれることをお勧めします。



「幸せうさぎ」はボクだよ～！

連休中のメルマガは休刊いたしまして、次回は5月9日(木)の発行となります。(円行)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp

